
手料理

tanaka

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

手料理

【Nコード】

N6748L

【作者名】

t a n a k a

【あらすじ】

愛しの彼女の手料理を前にした男のちょっとした心境

彼女の手料理。大好きな人の手料理を食べられるのは、とても嬉しい事だと思う。

彼女の愛情を感じる事が出来るし、僕自信それに対して幸せを感じる事が出来る。

だけど……だけど――

「えへへっ♪ 一生懸命作ったから沢山食べてね♪」

「う、うん……」

大量に作られた料理。

それには目を瞑ろうと思う。しかし、

「な、何かおかずの種類が偏ってないかな？」

「え？ そうかなあ？」

彼女はとぼけているが、おかずのチョイスが微妙におかしいのは、あきらかだ。

何というか相性とかを完全に無視して、妙に精力がつくとされている料理が多い。

「た〜くさん、食べてね♪」

「あ、うん」

一応食べるけど、こんなに食べて大丈夫なのだろうか？

あまり精力がつき過ぎるのもどうかと思うんだよね。

いや、僕がいきなり彼女を襲うってわけじゃないけど……僕だつて一応健全な男の子

であるわけでした……ねえ？

だからこんなに食べるのは……

「早く食べて」

「……はい」

何だろう？ 無理やり催促されているような気がするの。

しかも心なしか怒ってる気もするし。

色々と気になる事はあるが、彼女の表情が怖いので大人しく食べる事にした。

チヨイスは微妙だけど、美味しそうなのは間違いないしね。

そう。別に変な事を期待してるわけじゃないんだからね。

この後の展開なんて……本当に期待してないんだよ！

てか、その前に満腹になり過ぎてヤバイ事になりそうな気がするしね。

自分に向けて言うのも変だけど、

——ご愁傷様。

色んな意味で無事に帰って来て下さいね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6748/>

手料理

2010年10月15日21時56分発行